



# 桐鈴会

桐鈴会の今昔いまむかし

第94号  
平成26年3月15日発行  
発行責任者  
社会福祉法人 桐鈴会  
理事長 黒岩秩子  
南魚沼市浦佐 5142-1  
電話 025-780-4118  
FAX 025-777-3731  
e-mail  
suzukake@rose.ocn.ne.jp  
http://www17.ocn.ne.jp/~tourei/

桐鈴会理事 森山里子



## 7人でスタートした鈴懸

このたび桐鈴会の今昔という原稿依頼をいただきました。今は亡き鈴木要吉さんから土地と資金の寄付の申し出を受け、共に育つ会で社会福祉法人を作ることを検討し始めたのが平成8年だったと記憶していますので、それからなんと18年も過ぎてしまったのです。10年ほど昔という言葉がありますが、なんともうふた昔も前のことになるのです。

14年前に「ケアハウス鈴懸」ができた時には職員はわずか7人でした。その後制度対象外「シ

## 桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す  
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す  
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが安心して住める地域を創ろう



ョートステイルーム」、ヘルパーステーション「おはようヘルプ」、認知症のグループホーム「桐の花」、地域交流伝承館「夢草堂」、障がい者グループホーム「ひまわり」と出来、今年度は障がい福祉サービス事業所「工房とんとん」とケアホーム「おひさま」が相次いでスタートしました。



## 終のすみかを目指して

おひさまに一部屋ですが短期入所の部屋もあります。

職員も当初の7人からなんと65人にもなりました。当初は7人の職員では宿直が足りず、理事や評議員の中で宿直ができる人をお願いして、数人の方が名乗り出てくださり、当時の滝沢理事長や現黒岩秩子

理事長も宿直をやっていました。調理員の方も宿直に入っていたものです。

去年の暮れに職員の忘年会をホテルオカベでやりましたが、初めて見る人が何人もいて戸惑いました。ブランクもあり、かなり記憶力の衰えた私には全員の人の名前を覚えることはなかなか難しそうです。桐鈴会の各施設を利用していらっしゃる利用者の数は100人近くになります。

「終のすみかを目指します」という目標を持って運営していますので、この14年間で鈴懸でも桐の花でもずいぶん多くの方が人生の終焉を迎えられました。昨年、在宅ケア全国ネットで鈴懸と桐の花での看取りの実践についての発表をし、注目されま

した。（\* P3参照）制度以上の実践をすることで、職員の苦労は大変なものです。進んで看取りに取り組む職員にはいつも感心させられています。

### 障害福祉の変化とともに

ケアハウス鈴懸、おはようへルプ、工房とんとんといろいろな仕事にかかわり、今はおひさままで働いていますが、時々朝の6時半に早番で出勤すると、雪の降るまだ暗い中に桐の花にも鈴懸にも、おひさまにもすでに明るい電気がともり生活の気配が漂い、ほっとします。元気で早起きのおひさまの入居者が、「おはよう。今日の朝ごはんはなあに」と迎えてくれます。

平成11年にケアハウスが出来る前にはまだ障がいを持った人たちは入所施設での生活の方が一般的でした。ケアハウスを作る前にいくつかの施設の見学をしました。中でも一番印象に残っているのは老人も障がい者も子どもも誰でもが通うことが出来る富山方式といわれる「この指とまれ」というところでした。どんな人も共にということを取り組んできた、共に育

つ会で目指していたものを実現している場所だと思つたものです。

その頃障がい者の就労支援施設はこの地域では需要がないと行政から言われ、まずは老人福祉からスタートしたのですが



すずカフェ ableでの交流風景

時代は大きく変わりました。平成11年に、障害者基本法が改正され、すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現が掲げられました。そして平成15年に支援費制度になり、それまでの措置の時代から、障がい者がサービスを選択できる仕組みが出来、平成18年の障害

者自立支援法では知的障害、身体障害、精神障害の3障がいがある共通の制度として運営されることになりました。そして平成25年の障害者総合支援法では地域生活における共生の実現がうたわれています。こうしためまぐるしく変わる制度になかなかついていけない現実が福祉の現場にも、かわるスタッフにもあり、ブランクの多い私も日々戸惑うことばかりです。

おひさまにはその制度のとおり三つの障がいを持った方や合併障がいの方が7人集まりました。年齢は30歳から64歳までの方がいます。それぞれの障がいを持った方がうまく組み合わせさって補い合い、なかなかいい生活のスタートが出来たと喜んで前号に報告しましたが、そろそろ新しい生活にも慣れ緊張も取れてきたようです。それぞれのががままが出たり他の人のことがいろいろ気になってきて毎日何かしらトラブルが見られたり、我慢をしすぎて不調になったりということが見られるようになりまし。同じ障がいの人だけの施設の方がよかったか

な」と自分の選択を後悔し始めた人もいます。それぞれの障がい理解し合い、認め合いながらみんなが気持ちよく暮らしていくということはやはりなかなか大変な事のように思えます。

思えばケアハウス鈴懸ができた時にも、生きてきた道や価値観の違い30の方が穏やかな関係を保ちながら生活していくことはなんと難しいのだろうと心を痛めたものです。

「高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが安心して住める地域を創ろう」という桐鈴会の理念はまずここに住む人たちが安心して生活することから始まります。おひさまで暮らす人たちが「いろいろな人と一緒に生活できてよかった。毎日が楽しい」と言い合える日が来ることを願って、出来たての新しい家で目下試行錯誤しているところです。

### 進むふれあい



法人全体から見ると、老人施設、障がい者施設それぞれの施設は独立した建物になっていきますが、少しずつふれあいの機会が増えていきます。

土曜日と日曜日になるとひ

まわりの入居者が桐の花にやっ  
てきて雪を片づけたり、掃除を  
したりというボランティアをし  
てくださっていて、桐の花では  
職員も入居者もすっかり慣れて  
いい関係が出来ているようです。

先日鈴懸の入居者が主催し  
ているカラオケの練習日におひ  
さまの入居者が2名参加させて  
いただきました。3曲歌ってお  
やつを食べてきてとても楽しか  
ったそうです。とんさんの利用  
者も休みの日に家族に送っても  
らってカラオケに参加させてい  
ただいています。これまで障が  
いを持った人たちとの交流の機  
会が少なかったため、中にはま  
だまだ抵抗のある方もいらっし  
やることとは思いますが、機会  
が増えるにつれ、それも薄れて  
いくことでしょう。

鈴懸の入居者や桐の花の入  
居者がずカフェ able でお茶  
を飲んでいる姿もときどき見か  
けうれしいことです。子ども連  
れの若いお母さんたちがおもち  
やで子どもたちを遊ばせながら  
楽しそうにお茶を飲んでいたり、  
車椅子で「いらっしやい」と言  
うウエイトレスをやっている生

活介護の人たちが、その子ども  
たちの姿を見て喜んだり、少  
しずつ触れ合うことで地域の中  
で「共生」の実現が進むことが  
できるような気がしています。

多くの人の協力で桐鈴会が  
出来て15年、私をはじめ、職員

も役員もシルバー世代が多くな  
ってきました。少しずつ若返り  
も図りながら、法人の理念を追  
及していきたいものです。  
(注:「おひさま」看板作者、デ  
ザイン井口陽子さん、文字井口  
史男さん 魚沼市小出在住)

## 在宅ケアを支える診療所・市民 全国ネット全国大会



昨年9月22、23日、第19回の全国集会在初めて新潟で行われ  
ました。桐鈴会からも二つのレポートを出しました。その一つを  
担当した職員から感想を寄せてもらいました。この全国ネットは  
第17回大会までは、黒岩卓夫が代表を務めていました。卓夫が理  
事長を務めている医療法人萌気会が、在宅に取り組んでいるおか  
げで、桐鈴会でも看取りが可能になっています。この度、新潟で  
開かれたので、桐鈴会からもたくさんの職員が参加して研修をし  
てくることができました。(黒岩秩子)



### 「2年後に続きの発表をする」

#### 桐の花介護職員

関 和香子

鈴懸と桐の花を代表して1  
日目午後から、実践交流会1「緩  
和と看取り」に参加し「看取り

における家族の関わり」桐鈴会  
の理念から感じること」とい  
う表題で発表をしてきました。  
緩和ケアの部分が入っていなか  
ったので他の発表とは少し内容  
がずれていたかなと感じました  
が、私たちが行っていくケアに

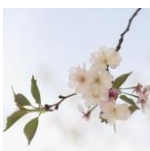
ついて、職員全体で考えるよい  
機会が持てたと思います。

この方は今、何を望んでいる  
のか？自分たちには何ができる  
のか？を考えながら、職員間や  
ご家族の方が「遠慮なく」話し  
合うことで、その方にとって最  
高の最期を送られるケアであり  
たいと思います。

実践発表の中で、在宅医療に  
取り組んでいる鶴ヶ島在宅医療  
診療所の斉木医師が「終末期に  
医療は必要ない。1%の科学と  
99%の思いやり」と言っていた  
のが印象的でした。

2日目は「障がい者の(ケア)  
を受ける立場から、(自立)への  
道を探る」のシンポジウムに参  
加しました。当事者の方たちの  
話は本当に前向きで行動的で、  
中には「愛や恋」のパワーも加  
わっていて、ただただ凄いな  
くと圧倒されました。

2年後の在宅ケア全国ネット  
では、また鈴懸の小林裕子とペ  
アで続編を検討中です。札幌大  
会にぜひ参加させてください。



平和への願いを  
込めて⑤  
ケアハウス鈴懸 山岸トヨ



☆38度線を突破、引き揚げ船に

乗船、日本へ

収容所を脱出後38度線突破。

京城（ソウル）で保護され、仁仙（インチョン）から引き揚げ船に乗りました。

ホットしたのか此の間の事はほとんど記憶に残っておりません。

船は貨物船でした。タラップに足を掛け、日本人の船員さんに手をひかれた時、「どんな船でもいい、これで日本に帰れる」。生まれ育った故郷を離れる感傷も、未知の日本々土に対する不安もなく、生きて日本に帰れる、ただそれだけの気持ちで乗船しました。

船中では、7ヶ月振りの温かいご飯と味噌汁、たった1杯の給食でしたが3度の食事は涙が出るほど嬉しかった。

多くの子どもたちは、栄養失調で痩せ細り腹だけが異様に膨れ、7ヶ月も入浴していない身

体は汚れと異臭で大変なものでした。

日本を目前にしながら力尽きて船上で亡くなられた人もいました。カマスに包まれ水葬にされ、玄界灘に沈みました。どんなに無念だったでしょう。



山岸トヨさん、鈴懸玄関にて

☆昭和21年6月15日佐世保港に入港、母の故郷へ

終戦、そして難民生活10ヶ月余り。生まれて初めて日本の景色を目にしました。緑がとても美しいと思いました。

赤土の山肌を見て育った私の目には、湾の岸辺に、水面まで垂れ下がっている初夏の緑は、本当に美しく映りました。

港では「並木路子」の「リンゴの唄」が流れていました。軽快なメロディー、夢のようでした。

佐世保から、今度は引き揚げ列車で母の実家の長岡に向かいました。空襲で焼け野原になった長岡、叔父さんの家もバラック建て。そこにお世話になり1ヶ月目に南方から父が復員して来ました。

その後数日して、私たち家族は父の故郷、南魚沼市宮に永住の地を求め越してまいりました。昭和21年8月20日頃と記憶しています。

あれから70年が経過しました。戦後の生活苦や、その後の生活については、きつと皆さんも同じ経験をして来られた事でしょう。



☆平和への願いを込めて

5回に亘り「凛々」の貴重な紙面をお借りして、北朝鮮からの逃避行を掲載させていただきました。

理事長さんから、投稿についてお声を掛けていただいた時は、余りにも永い年数の経過で、記憶に自信が持てず迷ったのです

が、幸いに祖父と、母が遺してくれた当時の記録を、以前にまとめて置いた物が有りましたので、それを頼りに、思い切ってお受けしました。

自分の記憶はすっかり風化していて、思い出すことは容易ではないとパソコンに向かったのですが、いざ書き始めますと、当時の状況が昨日の事のように次々と脳裏に浮かび、涙が止まりませんでした。

生死の境をさまよった恐ろしい体験は、時間の経過には関係なく忘れられないものなのでした。

子どもでしたので、さすがに地名、日時等については記憶が無く、母が残してしてくれた記録に助けられました。

月日は流れ、私も傘寿を迎えました。

今は毎日、「鈴懸」で平穏な日々を過ごしております。

間違った国政により戦争が始まり、多くの国民、そして世界中の人々が犠牲になりました。敗戦により新しい憲法ができ、此の憲法に守られて今の平和が有るのだと思います。

最近、この憲法の改正？が取沙汰されています。集団的自衛権の施行、武器の提供、沖縄の基地問題、「今後恐ろしいことが起きなければ良いが」と、考えるのは私だけでしょか。

ともすると忘れてしまいがちな歴史の事実をあらためて認識し、今の平和な時代の尊さを強く感じ、永遠に続きますようにと願わずにはいられません。

### ☆ あとがき

当時、北朝鮮に在住していた日本人は、皆、同じ思いをしています。故国に帰ってこられたことと思います。

略奪、婦女暴行なども多くありましたが、現地的一般市民の人達の、優しい心遣いが有った事も忘れてはならないことです。今、北朝鮮は世界中から批判の目が向けられています。

平和運動に反する核実験や拉致問題。そんな批判を浴びている国でも、私にとっては掛け替えの無い生まれ故郷なのです。終戦の日までは楽しい思い出、貴重な経験も沢山ありました。

先日、拉致被害者「蓮池 薫」

さんの講演をお聞きする機会を得、北朝鮮の現状を知りました。世界は平和と共に、北朝鮮に、一日も早く平和な日々が訪れます事を祈るばかりです。

過酷な長旅の末、栄養失調や疫病に罹り、無念にも故国に帰ることのできなかつた人も多勢おられました。その方々のご冥福を心からお祈りし、平和への願いを込めて終わりにいたします。

### お礼の言葉



山岸さん、素晴らしい報告をどうもありがとうございます。大変な反響をいただきました。

毎回、長崎の雲仙から「心にしみる内藤啓子さんをはじめ、遠くの方々、地域の方々から共感のお便りや声が届いていました。終わりにするのはとても残念です。

私の夫卓夫が「満州」からの引き上げで、夫の母からも2人の子どもを飢え死にさせたことなど詳しく聞いていました。でも今回の北朝鮮の話で一番驚いたのは、出てきた草の芽を食べてしまうので、空き地は緑になれなかった、とい

うことでした。

今「兵はいかにして殺されるのか」(彦坂諦著)を読んでいるところです。誰もが戦争はいやだと思っているのに戦争になって行ってしまういきさつが、今と似ているように思えてなりません。「突然？偶然？それとも必然？始まりは気づかぬうちに…」という朝ドラの歌が恐ろしさと共に迫ってきます。山岸さん、本当にどうもありがとうございます。

(黒岩秩子)

### 鈴木要吉さんの卒塔婆

夢草堂の片隅にある「安心堂ほほえみ観音」(桐鈴凛々81号に写真あり)に昨年9月に亡くなった鈴木要吉さんの卒塔婆が入りました。

皆様、ここに初めて入られた方が鈴木要吉さんだということとは、何かの意味があることではないでしょうか？心が向いた時、鈴木要吉さんをご供養くださいませ。

(黒岩秩子)



### お悔やみ

2月28日(金)、桐鈴会と深い関係のある方がお二人亡くなつてしまいました。

鈴木要吉さんの妻ヒロ子さん。大和病院から25日(火)に退院してきて、特養(八色園)で、娘さんの佐藤大恵(やすえ)さんが、ついでにいるときにすうつと息をしなくなったということです。要吉さんを深く愛していたヒロ子さん、亡くなってからは要吉さんのもとに行きたい一心だったのでと思われれます。要吉さんが9月28日でしたから、ちょうど5か月という日でした。(享年79歳)

もう一人は、評議員で川柳の会を主宰してくださっていた清水春代さんの夫博さん。入院中の大和病院でインフルエンザにかかって、亡くなったということです(享年83歳)。鈴木ヒロ子さんが、13:00、清水博さんが13:03とのこと。春代さんは、評議員を3月で退任し、川柳の牽引役も卒業となります。お世話になりました。



## 新年会・餅つき・豆まき

「ケアハウス鈴懸の豆まき」

鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 井口典子

今年は何女ということ、2  
回り下の小関真理と初めて節分  
の行事に参加させていただきま  
した。食堂に続々と入居者の方  
が集まって来られ緊張してい  
ると、「ワオー」と3匹の鬼が現れ  
暴れだしました。「鬼は外、福は  
内」と声が飛び交い、豆を鬼に  
ぶつける人、福(豆)を拾う人  
で大賑わい。  
無事鬼は退散して、おいしい  
甘酒をいただき、ほっとしまし  
た。今年も皆様がめでたき幸せな  
1年となりますように。



赤鬼、青鬼、緑鬼?の色とりどりの  
鬼が現れました



「ほら、鬼さん。お前  
さんも食べなさいよ」

「餅つき・節分」

グループホーム桐の花介護員

柳 婦美子

桐の花恒例となった餅つき  
が2月2日に行われました。市  
役所介護保険担当者を含む運営  
推進委員、石田茂晴さんファミ  
リー、職員の関和香子ファミリ  
ーからご協力をいただき「ヨイ  
ショ、ヨイショ」の掛け声で始  
まりました。ヨモギ餅の中にあ  
んこを入れ丸める作業には、  
「見たことはあるけど、実際に  
作るのは初めて」と四苦八苦し  
る人。「あんこがはみ出るのは  
まずい。大・中・小といろいろ  
作れよ」と口だけ参加してくれ  
る人。材料が無くなる頃には上  
手に出来上がっていました。お  
腹が空いた頃、雑煮・納豆餅な  
ども用意され、「おいしい!お  
餅大好き」と、皆さんの胃袋の  
中に入っていくきました。今年も

喉に詰まらせる人もなく無事終  
了。

次の日、昼食に職員手作りの  
恵方巻が振る舞われ、いつもは  
食の細かい人もこの日ばかりは食  
欲全開。あつという間に食べら  
れ、満足の笑顔が見られました。

3時頃赤鬼到着。待つてまし  
たと柘の中から落花生やお菓子  
を鬼に向け「鬼は外、福は内」  
と投げる人。自分の柘はそのま  
まにして、人の投げたものをポ  
ケットにしまう人、鬼と記念写  
真を撮る人と様々な豆まきでし  
た。楽しい行事ができるのもポ  
ランティアさんのおかげです。  
感謝しながら来年もよろしくお  
願ひします。

なお、ヨモギ・あんこは浦佐  
の飲食店、「菜穂路」さんから頂  
きました。ごちそうさまでした。



おいしい草団子召し上がれ

「新年会・豆まき」  
工房とんとん管理者

星野淳子

今年度当初のとんとんの運  
営目標は、メンバーさん(利用  
者、以下同じ)と共にパンの製  
造や店頭販売を軌道に乗せる事。  
試行錯誤しながら、作業内容を  
検討し、まだ少ないメンバーさ  
んと共に、1日1日を大切に過  
す事でした。11月におひさまが  
オープンし、やっと利用者さん  
が定員近くまで増えました。無  
我夢中で進めてきましたが、少  
しは軌道に乗り始めた事もあり、  
少しは余暇を楽しんで頂けたら  
という事になりました。まず第  
1弾として、新年会を企画しま  
した。

メンバーさんや職員は普段  
仕事をしているので自分ではす  
ずカフェ able を利用できるチ  
ャンスがありません。そこで1  
月4日、すずカフェ able で昼食  
会です。普段の昼食会とは違い、  
オードブルや飲み物も揃え、和  
やかでにぎやかな昼食会でした。  
第2弾は、2月2日の豆まき  
でした。メンバーさんが扮する  
迫力ある赤鬼や青鬼に、生活介



とんとん利用者さんに退治される赤鬼。すずカフェ ableにて

護のメンバーさんが驚いて泣き出す場面もありました。迫力ある「鬼は外。福は内」の声と豆まきには、思わず早々に退散したいと思ったほどでした。後から、メンバーさんの一人が、「久しぶりの豆まきで面白かったよ」と興奮気味に語ってくれました。現在余暇活動として、絵画や音楽ボランティアさん・ハンドマッサージのボランティアさんが来園して下さいます。とんとん会（メンバーさんの自治会）も月1回で始まりました。皆さんの声をお聞きしながら、とんとんらしさを醸し出せたら良いな！と考えています。日々、分らないことだらけですが、メンバーさんに教えられ、鍛えられながら、地域にとんとんあり！と必要とされる事業所を目指していききたいと思えます。

「出会った沢山の皆様、ありがとうございます」



佐藤雪江

工房とんとん  
サービス管理  
責任者

「お前様方の面倒になりたいばつかでこうして生きているがんだて！」（豊野ゼンさん）

7年前に桐の花の風呂場でゼンさんがかけてくれた言葉です。その頃、義母の認知症介護で身体も心もボロボロだった私に向けられた、瑞々しい一言でした。

その後おはようヘルプ、工房とんとんへと異動になり9年間で3ヶ所を経験した、自称桐鈴会の浮き草暮らしの私（笑）でした。

そこここで多くの人達にめぐり合い助けていただきました。おはようヘルプでは訪問先で「待ってたよ」「今日はお前さんがきたか」「ありがとうね」と温かい年長者の懐にどっぷりと甘えながら仕事をさせてもらいました。雪の朝滑って田んぼに車ごと飛び込んだり、スピード違反で警察

## お世話になりました

のお世話になったり、まさにチャレンジヤーの毎日でした。工房とんとんではサービス管理責任者として働かせて頂き、相談業務、入浴介助、レジ打ち、ウエイトレス、パンの外売と技を磨きました。

毎朝ハリケーンのように巻いてくる理事長をよけながらなるべく平常心でと心に誓いました。

若い利用者さんが悩みを伝えてきて、話を聞いた後、私も自信がなくて毎日不安を抱えながら歩いているんだよと言うと、「佐藤さん、それなら一緒に頑張りましょう」「とんとんにこないと私はダメになるから」と答えてくれました。対人援助は人に悩み、人に助けられる仕事だとつくづく感じています。

法人を離れる事になります。が、沢山の利用者様、関係機関の皆様、支えて頂きありがとうございます。深く御礼申し上げます。（注・転居のため退職）



「退任のあいさつ」



桐の花介護員  
小林登美子

この挨拶文は、実のところあと数年後に書くつもりでした。ところが身体の故障箇所がダブルからトリプル、そしてトリプルアクセル。最近では四つから五つくらいまでに増えてしまい、とうとうこうしてペンを取らざるを得なくなりました。

介護のいろはを教えてくれた上司や先輩たち。夜遅くまでの会議。利用者様の体調に皆で一喜一憂したこと。夏祭りや屋台デー、誕生会等数々の行事。時間がとれないのにとちよっぴりブウブウ言いながら、歌や踊りを皆で練習したことです。まだまだ書ききれない数々の事柄があり、それらの中で学ぶことが沢山ありました。利用者様の生き方や考え方、含蓄のある言葉や時に厳しい言葉からも様々なことを学ばせていただきました。懐かしくもあり楽しくもあり、ちよっぴり苦しさも混ぜ合わされた9年間、皆様お世話になりました。心からありがとうございます。

## 桐鈴川柳

(鈴懸川柳同好会・青木 孝選)

- ・立春は 暦の上で だけの春
- ・鬼の面 取って見たれば 美男美女
- ・立春が 大雪連れて 冬返り
- ・学校へ 近道できた しみ渡り
- ・立春に 陽は輝けど この寒さ
- ・立春と 言えども寒さ まだ厳し
- ・春が来た 立っては困る

待ったのに

- ・飛行機で 高天原(たかまがはら)

をさがしけり

- ・円安で 漁船転覆 いかの波
- ・餅つきに キネ持つ二人 威勢よく
- ・お、有る有る 大きな落花生
- ・梅だより チラシだけ見て 鬼に投げ

そばを食う

- ・立春が 荒れてまだまだ 遠い春
- ・温暖化 越後の雪が お引越し
- ・生まれ来て 15年余りで 世界一
- ・ああ忙し 一円造りの 造幣局

### 鈴懸川柳同好会新主宰者

青木孝さんの紹介

- 昭和7年生まれの81歳
- 南魚沼市六日町に在住
- 中学校教員等を歴任

### 勉強会のお知らせ

- 日時 5月12日(月) 13:30~
- 場所 工房とんとん食堂
- 内容 「機器が育む知的・発達障がい者のコミュニケーション能力」
- 講師 林 豊彦さん

新潟大学教授

大学院自然科学研究科

工学部福祉人間工学科

新潟市障がい者

ITサポートセンター主宰

- 92号、93号でお知らせした「最重度の障害児たちが語りはじめるとき」の本が感動を呼んで広がっています。「みんな言葉を持っていた」(オクムラ書店刊、柴田保之著)も感動します。その流れの中でこの勉強会が企画されました。どなたでもお出かけください。

### 編集後記

『もう春なのに』と思いきや、今の世相を反映してか、そう簡単に春にしてたまるか!のごとく、天竺の冬將軍を居眠りから起こしてしまつたようだ。これから冬に向かうかのような雪の降りっぷり。これは防ぎようがない。

海の向こうのウクライナ情勢も不穏な様相。ロシアで開催された冬のスポーツの祭典、ソチオリンピックが閉幕したとたんの出来事で、何が平和の祭典かと考えさせ

られる。日本では千葉の柏市で発生した通り魔事件。この手の事件が発生すると必ず、「動機は?」「原因は?」と検証することになるが、いまだにこの手の事件は無くならない。これまた防ぎようがないのか:と思つてしまう。

今の日本どこがおかしくなつてきているのかな:を実感。

先日、「いつやるか?今でしょ」の名言で、今マスコミで大人気の林修氏の講演を聞く機会があつた。他人の話を聞いた後、すぐ忘れる自分なのであるが、少し頭の中に残っていることがある。それは「年寄りを利用しなさい。小金も、知恵も世のしきたりも全部わかつている人だよ」。こんな年寄りを今の親はもっと利用しなければならぬ。したり!と思つた。だけど今は核家族世間。これではどうしようもない。これもまた防ぎようがない。

今の時代に合った子ども達の躰を一体誰が見るのか、するのか元をただせばやっぱり教育にありか:。これからの世の中が思いやられる昨今である。

(林 幸英)